

# ICT導入による業務改善例

特 養

テーマ  
見守りシステムの導入による効果的な利用者支援・インカム活用による効率的な情報共有

解決したい課題	法人・事業所における 検討状況・組織体制	ICTを活用した業務改善	
		課題の解決策	効果・目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>●利用者の見守りのために、職員が約1時間おきに居室を訪問しているが、身体的・心理的負担が大きい。また、夜間の訪問で利用者を起こしてしまうことがある。</li> <li>●職員間の連絡をPHSで行っているため、1対1の通話しかできず、応援を求めたい時、連絡事項がある時など、職員を探すことに多くの時間を割いている。</li> </ul>	<p>施設長、管理課長、ユニットリーダー、介護職員等をメンバーとした検討チームを立ち上げ、機器の見学や、デモンストラーションを数社行い、検討を重ねてきた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●シルエット動画を用いた見守りシステムを導入することで、プライバシーに配慮しながら、居室を訪問せずに利用者の状況を確認できる。見守りシステムからの情報は、介護記録に自動的に蓄積され、記録業務の効率化にもつながる。</li> <li>●インカムを導入することで、複数方向の通話が可能となり、業務連携が円滑に進む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●夜勤中に見守りのために居室を訪問する回数の減。入所者の適切な睡眠を確保することによる生活リズムの改善。</li> <li>●入所者の入浴待ち時間や、職員間の情報共有にかかる時間、職員を探す時間の削減。事故発生時の迅速な対応。</li> </ul>
現状の使用機器		導入機器	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●見守り支援機器 なし</li> <li>●職員間の連絡 PHS</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●シルエットセンサー型見守り支援機器 ：約1,110千円（5台）</li> <li>●インカム ：約2,100千円（16台）</li> </ul> <p>※ 他に記録ソフト、通信環境環境整備等について補助申請</p>	

# ICT導入による業務改善例

テーマ
介護記録等の管理システム導入による業務効率化

解決したい課題	法人・事業所における 検討状況・組織体制	ICTを活用した業務改善	
		課題の解決策	効果・目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護記録を手書きで行う場面が多数存在し、記録の整理に多大な時間と手間を要している。</li> <li>●バイタル測定時は手書きで記録を行っており、その後の電子データへの転記に時間を要するだけでなく、職員間で情報共有も効率的に図れていない。</li> </ul>	施設長、副施設長、介護主任、看護主任等をメンバーとしたICT導入検討チームを発足し、週一程度でミーティングを実施。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護記録システムを導入し、利用者情報をシステム上に集約。また、タブレット端末により随時状況を入力することで、効率的な情報の管理・更新が可能になる。</li> <li>●バイタル測定器を介護記録システムと連動させることにより、電子データへの転記作業がなくなり、また、職員間でタイムリーな情報共有が可能となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護記録の管理や更新に要していた時間の削減や職員の負担軽減。また、記録漏れの防止にも効果的。</li> <li>●利用者情報の共有に要する時間の大幅短縮。</li> </ul>
現状の使用機器		導入機器	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護記録システム 導入無し（主に手書きで記録）</li> <li>●アナログのバイタル測定機器</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護記録システム一式（ソフトウェア、タブレット端末（6台）） ：約4,000千円</li> <li>●介護記録と連携したバイタル測定機器 ：約100千円（10台）</li> <li>※ 他にインカム、通信環境環境整備等について補助申請</li> </ul>	

# ICT導入による業務改善例

テーマ  
併設サービスと連携した利用者見守り業務の効率化

解決したい課題	法人・事業所における 検討状況・組織体制	ICTを活用した業務改善	
		課題の解決策	効果・目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>●利用者が自由に動ける環境を作るよう努めているため、室内における転倒、ベッドからの転落などの事故の発生リスクが高い。</li> <li>●システム化した見守り支援機器を導入出来れば、全ての利用者の居室内も観察が行え、利用者の安全性の向上、職員の負担軽減につながる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●月1回の経営改善会議の議題に上げ、会長、社長及び事業所施設長と共に話し合いを行った。</li> <li>●新規導入見守り支援機器について、様々な会社から提案を受け、検討を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●入居者のベッドでの状態を感知する見守り支援機器とスマートフォンを導入することにより、施設内の色々な場所から、利用者の状況を確認することができる。</li> <li>●当施設は6階建であり、4・5階がGH、3階が小規模多機能である。緊急時等状況によっては、職員が応援に出向くこともあるため、スマートフォンへのモニター状況の通知は大変便利であり、業務の負担軽減につながる。</li> <li>●データ化された睡眠状況・生活習慣のレポートをPDF化して介護記録システムに添付し、スタッフ間の情報共有を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●居室内での利用者の安全性が高まる。</li> <li>●夜勤者の訪室回数の軽減（4回→2回）。</li> <li>●職員の精神面の負担軽減。</li> </ul>
現状の使用機器		導入機器	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●居室18室のうち3室のみ見守り支援機器を導入</li> <li>●センサーが感知した情報は、呼び出し音やパソコン画面等により確認</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●ベッドセンサー型見守り支援機器（全居室に導入） ：約2,600千円（18台）</li> <li>●スマートフォン ：約60千円（2台）</li> </ul>	